



SABO

多治見砂防国道事務所 令和3年度 事業概要



国土交通省 中部地方整備局
多治見砂防国道事務所

主な業務

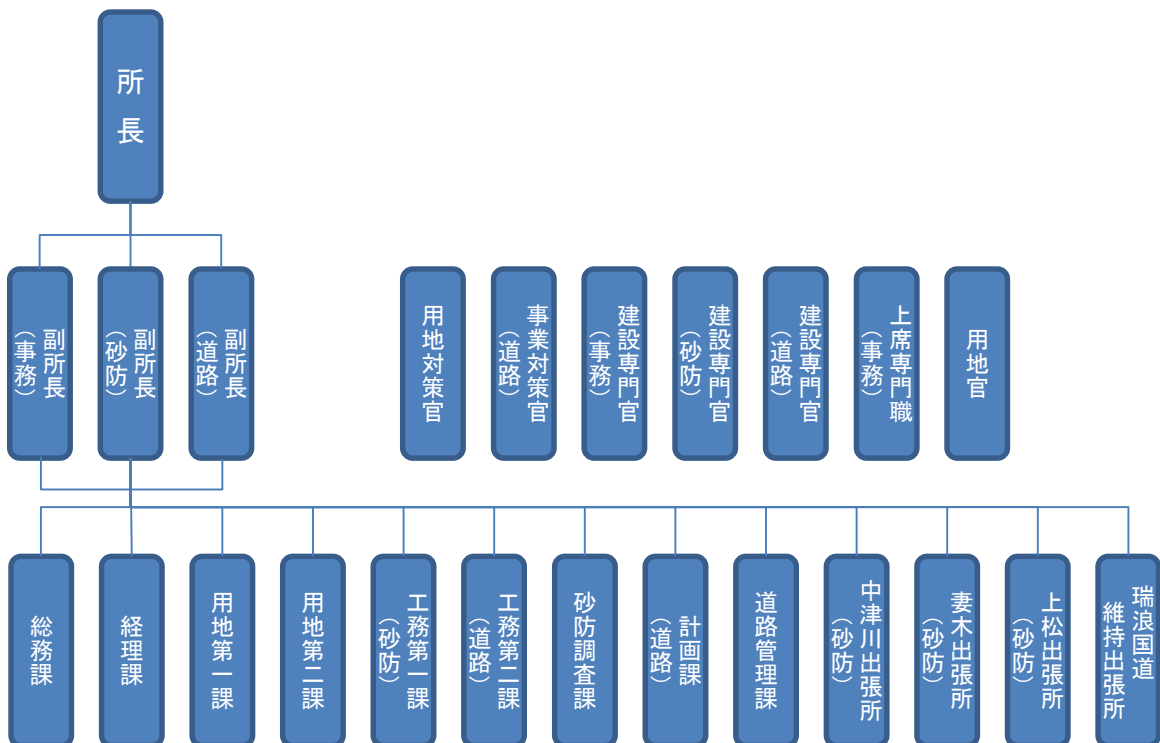
砂防事業

- ◆ 木曽川水系及び庄内川水系の砂防工事
- ◆ 木曽川水系及び庄内川水系の砂防調査

道路事業

- ◆ 19号及び21号の改築工事
- ◆ 19号及び21号の維持・修繕、交通安全、危険箇所の防災対策、道路情報提供、道路に係る許認可事務及び道路利用適正化のための指導取締等
- ◆ 管内地域の道路計画調査

多治見砂防国道事務所 組織図





越百川第3砂防堰堤



木曽川水系砂防



穴ヶ沢第1砂防堰堤（改築）



四ッ目川遊砂工

砂防事業の概要

TAJIMI SABO

多治見砂防国道事務所における砂防事業の概要

- ・多治見砂防国道事務所では、木曽川上流域の7支川等の流域面積538.0km²及び庄内川（土岐川）の7支川等の流域面積149.7km²に係る直轄砂防事業と御嶽山火山噴火に係る減災対応を実施しています。
- ・主な実施区域は、岐阜県の3市（多治見市・土岐市・中津川市）、長野県の2町1村（木曽郡上松町・南木曽町・大桑村）となります。

【木曽川砂防】

- ・木曽川上流域は、林地の荒廃が著しく、南木曽災害などの土砂災害の再度災害防止を目的に昭和53年より直轄事業化されています。
- ・中津川流域も同様に林地の荒廃が著しく、四ツ目災害などの土砂災害の再度災害防止を目的に昭和12年より直轄事業化されています。
- ・砂防堰堤、溪流保全工などのハード対策と併せてCCTVカメラや光ケーブルなどのソフト対策を実施し再度災害防止により地域の安全・安心を図ります。



木曽川水系
桜洞砂防堰堤

【庄内川砂防】

- ・事業区域は、都市化が進み、名古屋圏のベッドタウンとしても開発が進められています。
- ・庄内川（土岐川）流域は、薪材の乱伐等により林地の荒廃が著しく、土砂災害の再度防止、また市街地形成による生活圏の安全性向上を目的に昭和12年より直轄事業化されています。
- ・砂防堰堤、溪流保全工などのハード対策と併せてCCTVカメラや光ケーブルなどのソフト対策を実施し再度災害防止により地域の安全・安心を図ります。



庄内川水系
鍛冶ヶ入第5砂防堰堤



木曽川水系
滑川第1砂防堰堤



庄内川水系
深山谷第1砂防堰堤



漫画「進撃の巨人」
協力：諒山創／講談社

※モザイクデザインは、講談社より使用許可を得たものを多治見西高校まんが部の生徒によりデザインされたものです。その後、笠原陶磁器工業共同組合によりモザイクタイル化したものを砂防堰堤に設置しています。

木曽川水系の概要

流域の概要

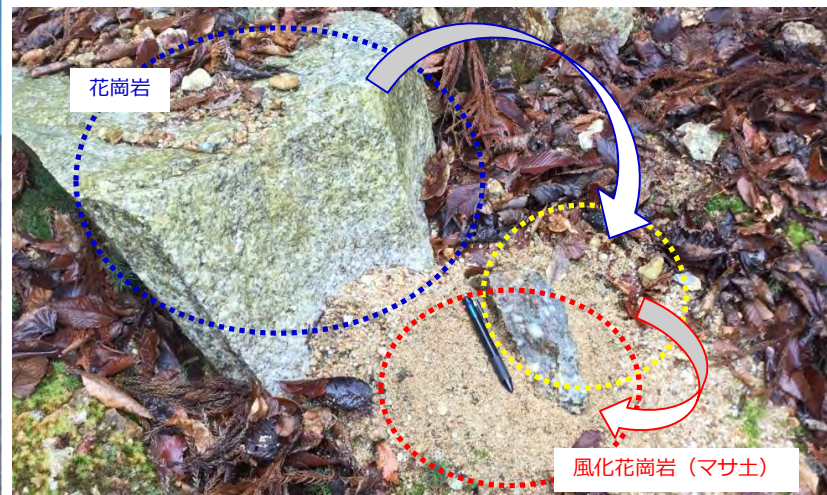
木曽川は、その源を長野県木曽郡木祖村鉢盛（はちもり）山（標高2,446m）に発し、古来から木材（ヒノキなど木曽五木）の産地として名高い木曽谷を南西に流下し、岐阜県中津川市に入り、落合川・中津川・阿木川・飛騨川等の諸川を合わせ、愛知県犬山市で濃尾平野に出て南西に流下します。その後、長良川と並流して伊勢湾に注ぐ、流域面積5,275km²、幹川流路延長229kmの一級河川です。

木曽川直轄砂防区域は、長野県の木曽谷から岐阜県中津川市に至る木曽川の左岸側に位置し、南北42km、東西10km超となる流域面積約538km²となります。

もろい地質と急な斜面

東部の駒ヶ岳・空木（うつぎ）岳・摺古木（すりこぎ）山から東南端の恵那山に連なる標高1,500～3,000m級の木曽山脈（中央アルプス）に囲まれた、急峻な山岳地帯です。また、地形が急峻であることに加え、地質的には山岳部の中央が新期花崗岩（領家変成岩）及び石英斑岩から成り、風化が著しく、複数の断層が発達・並走し、崩壊土砂の生産が活発な地域となっています。

■風化等による花崗岩の変化の様子

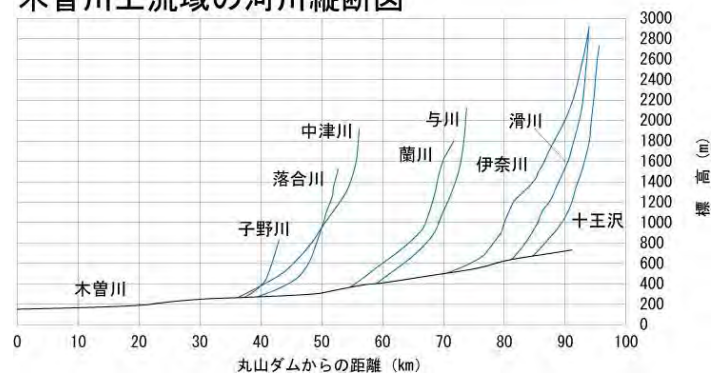


木曽川や滑川の河原では、白くて大きな岩をたくさん見ることができます。花崗岩と呼ばれる岩です。花崗岩はとても硬い岩石ですが、水などの作用で風化しやすくなる性質を持っています。

急流河川と河岸段丘が連続してつながる地形

上流部は河岸段丘が連続してつながる地形で、段丘面に人口や資産が集中しています。3,000m級の山々が連なる中央アルプスから流れこむ支川は、木曽川本川よりもさらに急勾配となっているところが多いです。

木曽川上流域の河川縦断図



中央アルプスから流れ出る支川溪流(滑川)

庄内川水系の概要

流域の概要

庄内川（土岐川）は、その源を岐阜県恵那市山岡町の夕立山（標高727m）に発し、幾多の渓流を合わせて流下し愛知県に入り、名古屋市の北西部を貫流し伊勢湾に流入する流路延長96km、流域面積1,010km²の一級河川です。なお、庄内川は、岐阜県内では土岐川と呼ばれています。

庄内川（土岐川）直轄砂防流域は、肥田川、妻木川、生田川、笠原川、市之倉川、高田川、大原川の各支川が流れ込む土岐川下流部の2市（多治見市・土岐市）にわたる流域面積149.7km²の流域です。

都市化による危険性の増大

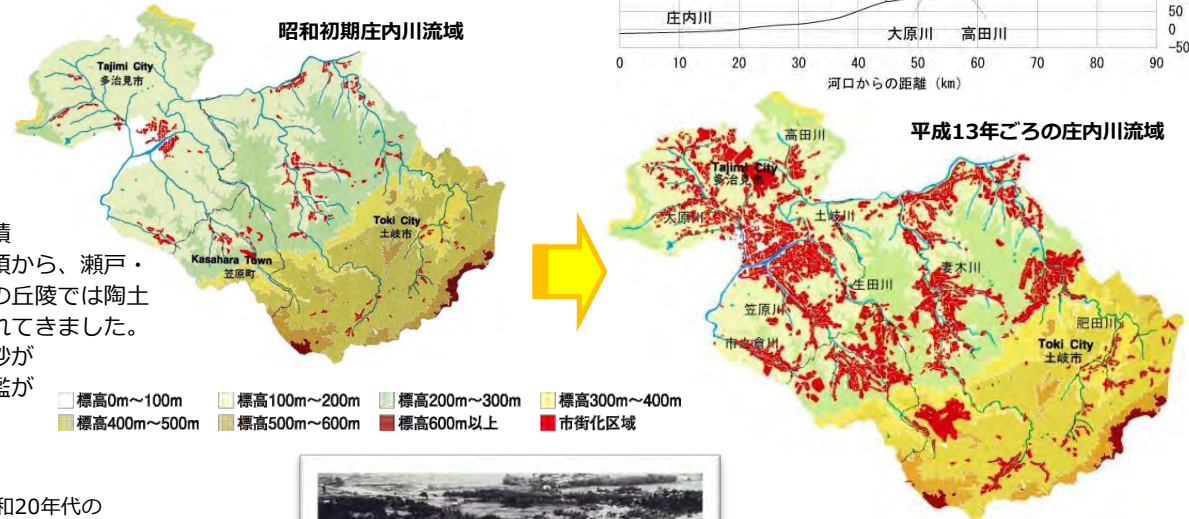
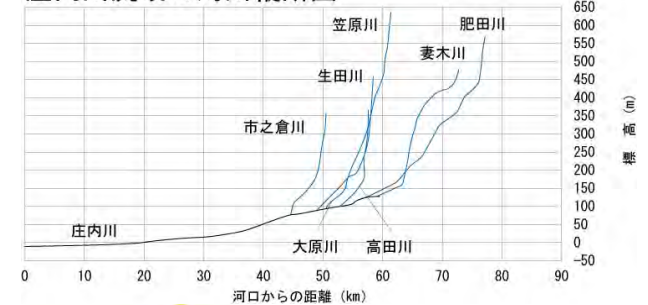
人口増加が著しくなった高度成長期からは、山裾近くまで宅地開発による都市化が進み、土砂災害の危険性がより高まっています。

窯業の発展に伴う山の荒廃

流域には、陶磁器生産に適する瀬戸層群が堆積しており、尾張藩の奨励もあって、江戸時代中頃から、瀬戸・多治見地方は焼き物が盛んとなりました。周辺の丘陵では陶土の採掘や薪を得るための山林伐採が盛んに行われてきました。

このため、大雨が降れば、荒れた丘陵から土砂が流れ出して庄内川支川等の河床を上昇させ、氾濫が繰り返し発生しました。

庄内川流域の河川縦断図



昭和10年代の
土岐郡笠原町(平園川上流)



昭和20年代の
多治見市長瀬町(多治見IC北)



昭和20年代後半
山腹工事施工(昭和27～28年)



現在の山腹工事施工地(平成14年)

過去の荒廃状況

庄内川流域は未固結の粘土層や風化しやすい花崗岩が分布していることに加え、複数の断層が存在し、土石流や崩壊が発生しやすい地形地質構造となっています。

このため、地震や降雨により崩壊が生じ、庄内川本川まで多量の土砂が流出する可能性が高い状況にあります。

直轄事業化までの経緯

【木曽川砂防】

◆木曽川下流域（中津川市）

【昭和7年】

四ツ目川災害により中津川市街に壊滅的な被害



【昭和12年】

直轄砂防事業を開始
中津川、子野川、
落合川



四ツ目川災害(中津川駅構内)

◆木曽川上流域（南木曽町～上松町）

【昭和41年】

南木曽町三留野他で土石流による甚大な被害

【昭和50年】

七夕災害など土砂災害が頻発



【昭和53年】

直轄砂防事業を開始
滑川、伊奈川、与川、蘭川

【平成元年】

直轄砂防事業を拡大 残流域



南木曽災害(南木曽町内)

【庄内川砂防】

- ・庄内川流域では、窯業や生活燃料としての新材の乱伐等により林地が荒廃していました。
- ・山地から流出した土砂による河床上昇によって、氾濫が誘発されやすい状況にありました。

【江戸時代】

「石砂留普請（いしすなどめふしん）」と呼ばれる
川普請（治山・治水工事）を実施

【明治12年】

ヨハネス・デレーケが、
「庄内川山丘土砂流送の件」を内務省に提出

【大正6年】

愛知県と岐阜県が費用分担し
庄内川上流（岐阜県）の砂防工事を実施

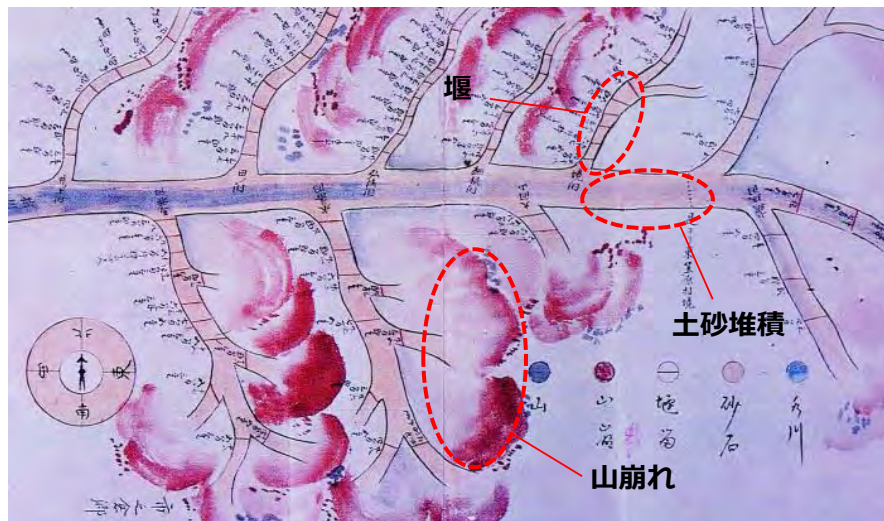


【昭和12年～16年】

直轄砂防事業を開始（妻木川・笠原川）
（市之倉川は昭和14年、土岐川本川残流域は
S16年）

【昭和25年～32年】

直轄砂防事業を順次拡大（肥田川S25年・生田川
S26年・大原川S27年・高田川S32年）



市之倉川とそれに流れ込む支流における普請箇所を示す
「市之倉郷石砂留普請絵図」（多治見市図書館郷土資料室提供に一部加筆）

過去の主な災害（木曽川水系）

≪木曽川水系≫

明治37年7月 〔蘭川水害〕による災害（南木曽町）

1904（明治37）年7月9日から11日にかけて豪雨のため
蘭川流域の各所で土石流が発生

死者52名

負傷者17名

流出家屋57戸



昭和7年8月 〔四ツ目川災害〕集中豪雨による災害（中津川市）

集中豪雨により四ツ目川が氾濫
中津川市内
死者2名、負傷者24名
流出家屋63戸、全半壊住宅245戸、
土石流入家屋212戸
橋の流失18ヶ所、道路決壊18km



中津川市内の被災状況



中津川市内の被災状況

- 巨岩流出範囲 → 流出経路 ●埋没道路
蛇ぬけ来襲前木曽川右岸線
× 流失倒壊家屋及び倒壊ヶ所
- | | |
|------------------|--------------|
| (1) 校長宅 | (8) 家庭科ブロック |
| (2) (3) (4) 教諭宅 | (9) (10) 渡廊下 |
| (5) (6) (7) 南木曽館 | (11) 給食室 |
| | (12) 個人宅 |

昭和41年6月 〔南木曽災害〕豪雨による災害（南木曽町）

豪雨により南木曽町を中心に各所で土石流が発生
三留野地区をはじめとして
家屋流出・全壊38戸
半壊111戸
橋梁の流出等



土石流に破壊された家屋



南木曽橋の主桁にせまる濁流
〈出典：「中部の水害」〉

大正12年7月 〔蛇抜け〕集中豪雨による災害（大桑村）

梅雨末期の集中豪雨が1週間程度続き7月18日に蛇抜けが発生

死者26名

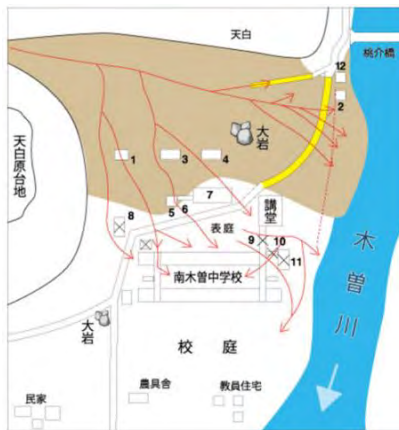
負傷者34名

流出家屋31戸

昭和28年7月 〔伊勢小屋蛇ぬけ〕土石流による災害（南木曽町）

豪雨による災害。道路交通の途絶、
国鉄中央本線の不通により落合村は孤立
犠牲者3名、流失家屋5戸

○「じゃぬけ 伊勢小屋沢その後の45年」を加筆



○碑文解説

白い雨が降るとぬける

しぶきであたり一面が白っぽくなり視界が悪くなる状況になると「蛇ぬけ」が発生する。

尾先 谷口 宮の前

尾根の先端、谷の出口、お宮の前には家を建てるな。この災害は「谷の出口」で起こっている。

雨に風が加わると危ない

風によって木の根がゆるみ、流木の発生が促進されることがある。

出典「『蛇ぬけの碑』の教訓」（平成22年度（社）砂防協会 通常総会並びに研究発表会「長野大会」）を加筆



〔蛇ぬけの碑〕

1953年（昭和28年）7月20日に発生した「蛇ぬけ（土石流）」の犠牲者3名の慰霊と悲惨な災害を2度と起こさないことを願い、7周年にあたる1960年（昭和35年）に建設されました。

長雨後 谷の水が急に止まったら ぬける

学校へ行く途中、伊勢小屋沢土橋付近の水量は、少ないように思った。

蛇ぬけの水は黒い 蛇ぬけの前はききな臭い匂いがする

水の色はドス黒く、ドコのような臭いが鼻をついて、なんとも言い表せない恐ろしさを感じた。

過去の主な災害（庄内川水系）

「庄内川水系」

昭和32年8月 豪雨による災害（多治見市・土岐市）

豪雨により多治見市・土岐市で多数の山腹・溪岸崩壊が発生
浸水被害も甚大であった

多治見市：床上・床下浸水5,158戸
全壊・半壊家屋住家52戸

土岐市：床上・床下浸水4,456戸
全壊・半壊住家69戸



土砂流出により埋まった家屋



通行止めになった県道

平成元年9月 台風22号による災害（多治見市・土岐市）

台風22号により多治見市・土岐市で多くの浸水や土砂災害が発生
多治見市で床上・床下浸水33戸、土岐市で床上・床下浸水459戸
全半壊5戸、崩壊により死者1名



土岐市内の浸水状況

崩壊した斜面
(土岐市西山)



平成11年6月 梅雨前線による災害

（多治見市・土岐市）



肥田川支流から流出した土砂と流木

平成23年9月 台風15号による災害（多治見市・土岐市）

台風15号により多治見市・
土岐市で多くの浸水や土砂
災害が発生
床上浸水228戸
床下浸水195戸
死者2名 行方不明1名



道路を塞ぐ土石流(多治見市)



多治見市平和町



土岐市内の浸水状況

近年の災害（梨子沢土石流）

平成26年7月9日 長野県南木曽町で発生した土石流災害

平成26年7月9日に、長野県木曽郡南木曽町を流れる梨子沢において大規模な土石流が発生し、死者1名・軽傷3名、住宅全壊10棟・一部損壊3棟などの甚大な被害が生じました。また、JR中央本線では橋梁が流出し、国道19号には大量の土砂が流出するなど、交通機関にも大きな影響を与えました。

災害復旧状況

黄色い三角：既設施設
赤い三角：新設施設

写真撮影方向



< 梨子沢第2砂防堰堤 >



災害後に、緊急的に除石を実施し、その後、副堤を含む砂防堰堤を整備しました。



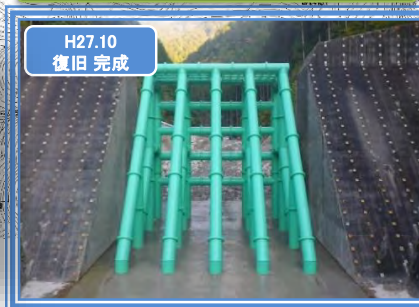
< 梨子沢第3砂防堰堤 >



< 梨子沢第4砂防堰堤 >



< 梨子沢第1砂防堰堤 >



近年の災害（御嶽山噴火災害）

平成26年9月27日 御嶽山で発生した火山噴火災害

平成26年9月27日に、岐阜県と長野県をまたぐ御嶽山において火山噴火災害が発生しました。

災害発生直後より、土砂災害防止法に基づく緊急調査を噴火直後に着手し、二次災害防止等の対策として監視カメラ、ワイヤーセンサー、ブロック積み砂防堰堤等の設置をしました。



噴火直後の上空からの様子



ブロック積み砂防堰堤設置の状況



監視カメラ設置状況



緊急調査の実施
(降灰状況調査の状況)



シミュレーションの実施状況



降灰の洪水等による影響範囲の
シミュレーション結果



ワイヤーセンサー設置の状況

主な施工・効果事例

越百川第3砂防堰堤（土砂等の捕捉）



鋼管部の高さが日本一の透過型ハイダム堰堤
R3年3月完成



H30年12月撮影

概要：H30年8～9月の大雨により土石流が発生し、整備途中ではあったものの土砂・流木を捕捉し被害を防止。
捕捉土砂量：約20,000m³
総雨量：①136mm（8月15日22時～8月16日21時）
②99mm（9月4日7時～9月5日11時）
時間最大雨量：①35mm（8月16日16時～17時）
②23mm（9月4日17時～18時）

滑川第1砂防堰堤（除石）

概要：R2年6月の大雨により土砂移動が発生し、事前防災の除石効果により土砂等を捕捉し被害を防止。
捕捉土砂量：約50,000m³
連続雨量：86mm（6月14日2時～6月14日23時）
時間最大雨量：19mm（6月14日21時～22時）



除石作業状況



土砂移動発生前 令和2年6月9日

除石（土砂撤去）の状況



土砂移動発生直後 令和2年6月15日

約50,000m³の土砂を捕捉

額付第1砂防堰堤（改築）



H29年3月着工

概要：既設の不透過型砂防堰堤において、機能向上のために堰堤の嵩上げ、鋼製スリット設置等による部分透過型へ改築。



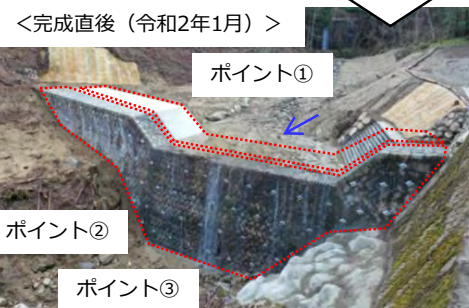
R3年2月完成

穴ヶ沢第1砂防堰堤（改築）

概要：平成30年7月豪雨に伴う石積砂防堰堤の被災を受け、緊急的に補強改築を実施。



<施工前>



<完成直後（令和2年1月）>



ポイント①
本体・袖部への土石流直撃を緩衝・抑制
⇒粗石コンクリートによる緩衝材の設置

ポイント②
土石流の衝撃による本体・袖部の崩壊を軽減
⇒高強度ネット・アンカーの設置（一体性の確保）

ポイント③
施工にあたっての安全対策
⇒低振動の削孔機、3Dレーザースキャナーによる計測

土砂災害の監視体制の整備

CCTVカメラによる映像の配信（多治見砂防国道事務所ホームページ）

洪水時等における土砂の流出状況や砂防堰堤の施設状況把握などのため、監視カメラの映像を事務所ホームページで配信しています。

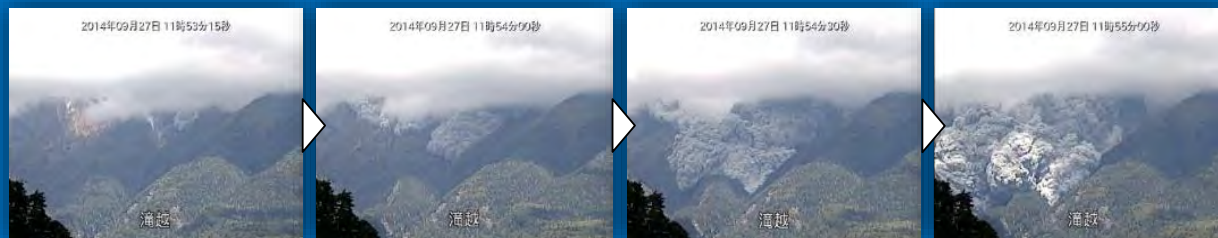
木曽川砂防・庄内川砂防カメラ https://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/desk/sabou_live.html



御嶽山カメラ <https://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/sabo/ontake/>



御嶽山の噴火状況（CCTVカメラがとらえた映像）



長野県南木曽町梨子沢で発生した土石流の状況（CCTVカメラがとらえた映像）



減災対策の取組（1）

自治体・県と連携した合同防災訓練の実施

合同防災訓練は、大規模土砂災害発生時の関係機関の災害対応能力の向上や連携強化を目的とした訓練で、平成18年度より管内の6市町村（中津川市、南木曽町、大桑村、多治見市、土岐市、上松町）にて順次実施しています。

<令和2年度 大桑村大規模土砂災害合同防災訓練>

令和2年度は、大桑村を対象に、11月4日に開催しました。
新型コロナウイルス感染拡大防止も考慮して、WEB形式にて実施。

■訓練のポイント

近年の土砂災害の多発や、それに対する村、県、国の円滑な二次災害防止のための緊急対応、避難について、災害発生前から大規模土砂災害の発生、住民避難までの一連の流れを想定した訓練を実施。
主に、①情報収集・共有体制②土砂災害防止法や災害対策基本法に基づく各機関の対応の確認を目的に実施しました。



図 WEBを活用した訓練状況



図 訓練にて対応した内容のイメージ

令和2年度 多治見砂防国道事務所災害協定の締結

砂防事業（御嶽山を含む）管内において災害が発生した場合に、迅速な二次災害防止対策や被災施設の早期復旧を実施するための応急対策業務（測量・設計・観測・調査検討・地質等）に関する協定を、令和2年6月1日に測量業者、土木関係建設コンサルタント等の23社と締結しました。

■業務の内容

区分	内容
1	基準点測量、水準測量、路線測量、河川測量、現地測量、UAVによる公共測量、降灰量調査、浸透能調査等
2	空中写真測量・航空レーザ測量、UAVによる公共測量等による地形変状計測、人工衛星による撮影、画像収集、画像加工及び解析等
3	土石流等の氾濫シミュレーション、UAVによる公共測量、土石流等の監視、緊急応急対策検討等
4	機械ボーリング、総合解析、降灰量調査、浸透能調査等



図 各区分における業務内容イメージ

減災対策の取組（2）

御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画 [1/2]

1. 御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画

御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画は、御嶽山の噴火に伴って起きる**土砂移動（土砂災害）による被害をできる限り軽減（減災）**することを目的として、平成23年7月に策定運用してきたが、平成26年7月の噴火後に実施した緊急減災対策を踏まえて抽出・整理した課題への対応策や、計画の実効性向上に向けた取り組みの記載など、砂防計画全体を見直し策定した。

2. 対象とする土砂移動現象

緊急ハード対策で対象とする現象は、**降灰後の土石流、融雪型火山泥流**とする

降灰後の土石流

火山灰等が堆積した斜面への降雨で発生する現象。少量の降雨でも起こり、噴火終了後も数年間、継続して発生することがある。



雲仙普賢岳1991年噴火後に発生した土石流
(撮影：国土交通省)

- 想定噴火：水蒸気噴火（10万m³DRE）
- 降雨：2年超過確率規模（緊急ハード）
100年超過確率規模（緊急ソフト）
- 対策対象：降灰堆積厚が5cm以上となる土砂流危険渓流のうち、保全対象が被災する可能性のある渓流（5箇所）

融雪型火山泥流

噴火による高温の噴出物が、火口付近の積雪を急速に解かし、それによって発生した大量の水が周辺の土砂をまき込みながら流下する現象。



1926年十勝岳噴火に伴った融雪型火山泥流の跡
(出典：上富良野町郷土館
大正15年十勝岳大爆発記録写真集、1980)

- 想定噴火：マグマ噴火（1000万m³DRE）
- 誘因現象：中規模火砕流（温度800度）
- 積雪：年間最大積雪量の平均値（火口付近で165cm、密度0.4g/cm³）
- 対策対象：上記火砕流の流下が想定される11方向で想定し、保全対象が被災する可能性ある箇所（14箇所）

3. 緊急対策の考え方

- 噴火に伴う土砂移動現象（土砂災害）から、**住民や観光客の避難路を保全し、生命・財産の被害をできる限り軽減（減災）**することを基本方針とする。
- 緊急対策は、噴火等が発生している**非常時対応**と火山活動が平穏な**平常時対応**との組み合わせである。
- 緊急対策は限られた時間、資機材による対策であり、**対応可能な現象・規模には限界がある**ことに留意する。
- 限られた**時間と資機材を有効利用**するため、**緊急ハード・ソフト対策**を組み合わせ柔軟に対応する。
- 緊急時の対応の実効性向上に向けて、**平常時からの準備**（資機材の備蓄、情報伝達・共有手段の確認、訓練など）を実施する。

御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画 [2/2]

4. 緊急ハード対策

- 噴火に伴い発生する土砂移動（土砂災害）に対して、**効果を最大限発揮できる箇所**で実施する。
- 対策工法として、**コンクリートブロック積み砂防堰堤、護岸の高上げ等**、保全対象上流側に既設砂防堰堤がある場合は**除石**などを実施する。
- 対策実施に際しては、**無人化施工**も視野に入れて検討する。



コンクリートブロック積み砂防堰堤
(鹿ノ瀬川、国土交通省中部地方整備局)



大型土のうによる護岸の高上げ
(鈴ヶ沢、長野県)



砂防堰堤の除石
(湯川、長野県)

H26噴火時の対応事例

5. 緊急ソフト対策

- 火山活動が活発化した際に現状を把握するため、**緊急調査**を実施する。
- 噴火時の状況把握や関係機関や住民等への情報提供**などを行い、火山活動の推移に応じて、以下の対策を実施する。

- 監視・観測機器**の緊急的な設置
- リアルタイムアナリシス型およびプレアナリシス型リアルタイムハザードマップ**等による氾濫範囲の想定
- 緊急ハード対策施工時の**安全管理**



6. 実効性向上に向けた取り組み

- 緊急ハード・ソフト対策を**迅速かつ効率的に実施**するため、**平常時から準備**を行う。
 - 緊急ハード・ソフト対策図面の作成
 - 必要資機材の把握と備蓄
 - 工事用道路の整備
 - 関係機関との調整（許認可）
 - 対策箇所の用地確保と砂防指定地化
 - コンクリートブロックの作成と備蓄
 - 対策箇所の地権者確認と使用許諾
- 関係機関での**役割分担**を確認しつつ、**継続的な連携・情報共有**が必要である。
- 関係機関参加による、噴火を想定した**防災演習**を実施する。
- 防災教育や広報活動**等を通して、御嶽山に対する知識や理解を広める。
- 最新の対策工法や監視観測技術等を活用し、**技術開発の推進**を図る。

防災活動（砂防TEC・防災訓練）への取組

自治体と合同で土砂災害発生時の緊急点検の訓練を実施

大規模土砂災害の発生やその恐れのある場合に速やかに対応できるように、土砂災害危険箇所等の緊急点検及び工事現場の調査を実施しました。

■開催内容

- ・砂防堰堤改築工事の現場調査（下平次第8砂防堰堤）
- ・SMART SABOを用いた土砂災害危険箇所等の緊急点検の訓練
- ・UAV（ドローン）の飛行訓練
- ・レーザー測距儀等を用いた渓流点検

○令和2年11月25日（水）（四ツ目川遊砂工）



現場代理人による工事概要説明
（下平次第8砂防堰堤改築工事）



緊急点検について
TEC-FOECEの概要説明
SMART SABOの操作説明



ドローン飛行訓練風景



レーザー測距儀による
距離計測



不安定土砂を想定した
渓流点検状況

令和元年 台風第19号の豪雨による被災状況調査を支援

台風第19号の豪雨による被災状況調査を支援するため、多治見砂防国道事務所と越美山系砂防事務所から職員4名をTEC-FORCE（テックフォース：緊急災害対策派遣隊）として東北地方へ派遣した。被災地域の1日も早い復旧を全力で支援します。



○東北地方に派遣されているTEC隊員（砂防調査班）

○岩手県宮古市役所にて被災状況調査に向けた事前打ち合わせを行う。



いわき市田人町旅人で
被災状況調査を実施



宮古市川代地区でドローンによる被災状況調査を実施



岩手県宮古市白浜地区の土石流による被災現場にて調査



宮古市田老字荒谷地区の急傾斜地危険箇所の緊急調査

地域と協働した取組

グリーンベルト事業、里山砂防事業

多治見市、土岐市の市街地に隣接する山麓斜面を一連の緑地帯（グリーンベルト）として、行政（市・県・国）と地域（住民・中学生）が連携して保全・創出することにより、土砂災害を防止し、自然環境・景観を保全することを目的としています。

< 基本理念 >

土岐川流域グリーンベルト整備事業は、互いの連携・協力のもと、はげ山から再生した丘陵を、より安全で豊かな都市山麓につくりあげていくものである。

< 基本方針 >

- ・山麓斜面を防災的に強い樹林地とし、土砂災害を防止する
- ・土砂災害の恐れのある地域に対し、適正な土地利用に誘導する
- ・防災機能が高く、種の多様性に富む樹林地を保全・創出する
- ・生活に憩いをもたらす自然景観を保全する
- ・身近な自然体験（環境学習や森林レクリエーション）の場を提供する

■目指すもの



- マツ枯れによるアカマツの立枯れ・折損・倒木
- 常緑広葉樹の低木・亜高木林の繁茂

■切る木

ヒサカキ・ソヨゴなどの常緑樹、樹種を問わず、株立ちしている木で、細い木、枯れている木

■残す木

ツツジ・コナラ等の落葉樹、樹種を問わず、太くて丈夫な木など

目標樹林（落葉広葉樹林）

○様々な木や下草がバランスよく生育している森へ



■樹林整備活動（里山砂防）地区



●：樹林整備活動地区

■中学校と連携した活動状況（例年実施している主な活動）



学習会（土砂災害、防災を学ぶ）

観察会（植物の種類、役割を学ぶ）

協働の間伐作業の体験

■地域協働によるグリーンベルト事業と里山砂防事業（作業道整備）



市民による樹林整備活動

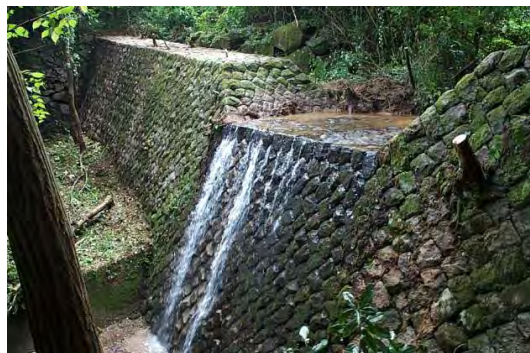
作業道への搬出状況

小学生等を対象とした防災教育の取組・広報活動

妻木砂防遺産のある町さんぽ構想

基本理念

地域住民・小中学生・観光客等が、砂防遺産や妻木町の歴史文化を巡る『さんぽ』を通じて、地域社会における砂防との関わりを気軽に楽しく体験・学習できるよう、妻木砂防遺産のある町さんぽ構想として策定するとともに、その環境を整備する。



浦山第2砂防堰堤



妻木城址（三の曲輪）より妻木川流域を臨む

砂防教室・あおぞら教室

毎年6月の土砂災害防止月間を中心に、管内の小中学生（主に4年生）を中心に、土砂災害をはじめとした防災を学ぶ場として、砂防教室・あおぞら教室を開催しています。



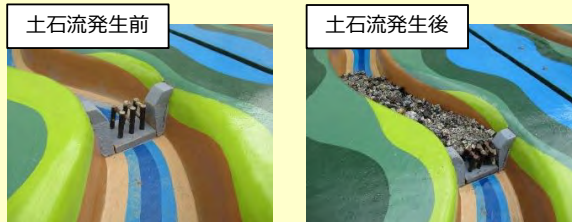
児童に防災教室について話をする職員



出張所長による「砂防」と「防災力」の話



土石流模型実験を体験する児童



砂防ダムが土石流を止めている状況が分かります

SABOカード

『SABOカード』とは砂防施設の魅力を情報発信するために配布する広報用のカード型パンフレットです。

木曽川・土岐川流域の砂防事業が国の直轄事業になって80年を迎えるにあたり、砂防施設に関心を持って頂き、砂防事業に、より理解を深めて頂くことを目的として中部では初めて『SABOカード』を製作しました。

平成29年4月に第1弾、平成30年4月に第2弾、令和3年4月に第3弾を製作しました。イベントでの配布のほか事務所、出張所、砂防施設近隣の公共施設等にて配布しています。

◇【第1弾】平成29年4月発表



◇【第2弾】平成30年4月発表



◇【第3弾】令和3年4月



越百川第3砂防堰堤
(長野県木曾郡大桑村)



額付第1砂防堰堤
(長野県木曾郡南木曾町)



穴ヶ沢第1砂防堰堤
(岐阜県中津川市恵下)



市之倉里山砂防事業
(岐阜県多治見市市之倉町)

令和3年度の直轄砂防事業（1）

直轄砂防事業費

(単位：百万円)

流域名	R2当初	R2補正	R3当初	R3/R2 当初比	(R2補正+R3当初) /R2当初比
木曽川水系	3,055	1,020	2,489	0.81	1.15
庄内川水系	613	230	487	0.79	1.17
合 計	3,668	1,250	2,976	0.81	1.15

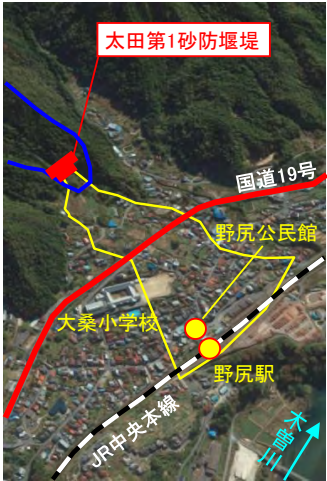
木曽川砂防（長野県）の事業箇所

(単位：百万円)

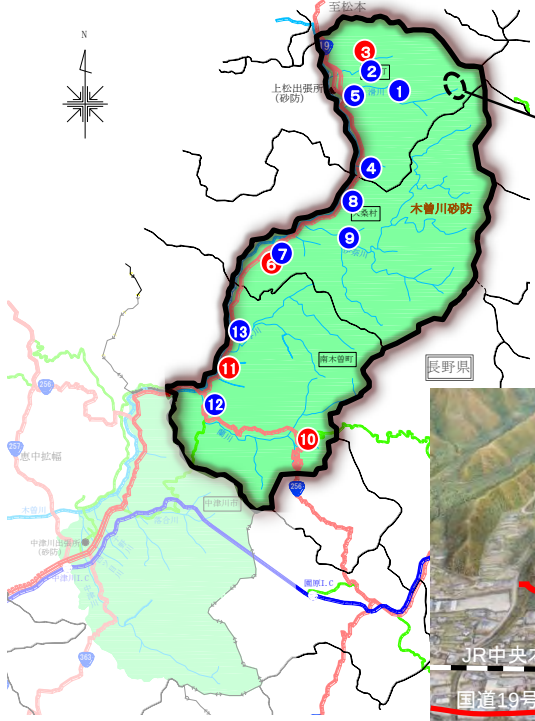
事業 区分	水 系	河川名	渓流名	箇所名	所 在 地 市・郡 区・町・村 字名等	工 程	R2 補正	R3 当初	計	備考
砂防										
木曽川水系（長野県）										
1	木曽川	滑川	滑川	滑川遊砂工	木曽郡 上松町 小川	遊砂地工	-	41	41	
2	木曽川	木曽川	十王沢	十王沢第3砂防堰堤	木曽郡 上松町 小川	砂防堰堤工	-	41	41	
3	木曽川	木曽川	板橋沢	板橋沢第1砂防堰堤	木曽郡 上松町 小川	砂防堰堤工	160	58	218	
4	木曽川	木曽川	大沢	大沢第1砂防堰堤	木曽郡 上松町 小川	砂防堰堤工	-	41	41	
5	木曽川	滑川	滑川	滑川下流床固工群	木曽郡 上松町 萩原	床固工	-	41	41	
6	木曽川	木曽川	大沢	下在砂防堰堤工群	木曽郡 大桑村 下在郷	砂防堰堤工	100	350	450	
7	木曽川	木曽川	太田	太田第1砂防堰堤	木曽郡 大桑村 野尻	砂防堰堤工	-	41	41	
8	木曽川	木曽川	猿沢	猿沢第1砂防堰堤	木曽郡 大桑村 上郷	砂防堰堤工	-	41	41	
9	木曽川	伊奈川	矢垂沢	矢垂沢砂防堰堤	木曽郡 大桑村 長野	砂防堰堤工	-	41	41	
10	木曽川	圓川	桂川	桂川第1砂防堰堤	木曽郡 南木曽町 広瀬	砂防堰堤工	150	58	208	
11	木曽川	木曽川	蛇抜沢	和合蛇抜沢沈砂地工	木曽郡 南木曽町 和合	遊砂地工	-	118	118	
12	木曽川	圓川	地蔵沢	地蔵沢第1砂防堰堤	木曽郡 南木曽町 善妻	砂防堰堤工	-	40	40	
13	木曽川	与川	与川	与川第1砂防堰堤	木曽郡 南木曽町 読書	砂防堰堤工	-	40	40	
14	木曽川			上松管内砂防施設改築	木曽郡 上松町、大桑村、南木曽町		150	543	693	
							560	1,494	2,054	



6.下在砂防堰堤工群(大桑村)



7.太田第1砂防堰堤(大桑村)



滑川上流の崩壊状況

凡 例	
●	工事中
●	計画・調整



1.滑川遊砂工(上松町)



5.滑川下流床固工群(上松町)



11.和合蛇抜沢沈砂地工(南木曽町)

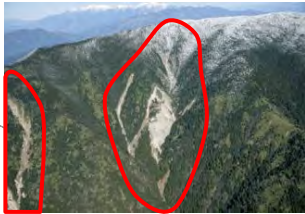
令和3年度の直轄砂防事業（2）

木曽川砂防（岐阜県）の事業箇所

事業区分	水系	河川名	渓流名	箇所名	所在地			工種	R2補正	R3当初	計	備考
					市・郡	区・町・村	字名等					
砂防												
木曽川水系（岐阜県）												
1	木曽川	中津川	中津川	川上流路工改築	中津川市	川上	床固工	-	190	190	完成予定	
2	木曽川	落合川	薬師沢	薬師沢第1砂防堰堤	中津川市	馬籠	砂防堰堤工	100	51	151		
3	木曽川	落合川	落合本谷	本谷砂防堰堤改築	中津川市	落合	砂防堰堤工	180	40	220		
4	木曽川	中津川	中津川	中津川第1・2砂防堰堤	中津川市	中津川	砂防堰堤工	-	23	23		
5	木曽川	木曽川	和田沢	和田沢砂防堰堤	中津川市	山口	砂防堰堤工	-	23	23		
6	木曽川	中津川	弥太洞	弥太洞第3砂防堰堤	中津川市	川上	砂防堰堤工	-	23	23		
7	木曽川	木曽川	アラクラ沢	アラクラ沢砂防堰堤	中津川市	山口	砂防堰堤工	-	149	149		
8	木曽川	木曽川	新梨沢	新梨沢砂防堰堤	中津川市	山口	砂防堰堤工	-	23	23		
9	木曽川			中津川管内砂防施設改築	中津川市		砂防堰堤工	180	471	651		
									460	993	1,453	



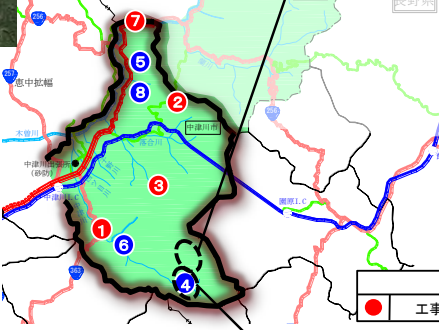
5.和田沢砂防堰堤（中津川市）



中津川上流の荒廃状況



1.川上流路工改築（中津川市）



事務所ホームページはこちら！
<https://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/>



庄内川水系砂防



平園第6砂防堰堤



雲五川床固工群（流路工）



市之倉おりべ砂防堰堤（中峰谷第1砂防堰堤）

 国土交通省 中部地方整備局
多治見砂防国道事務所

〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4-8-6

□工務第一課 TEL : 0572-25-8023 FAX : 0572-25-1038
□砂防調査課 TEL : 0572-25-8024 FAX : 0572-25-1038

□上松出張所 〒399-5605 長野県木曽郡上松町栄町2-9
TEL : 0264-52-4863 FAX : 0264-52-2734

□中津川出張所 〒508-0045 中津川市かやの木町4-1
TEL : 0573-66-1353 FAX : 0573-65-3003

□妻木出張所 〒509-5301 土岐市妻木町万場1135-2
TEL : 0572-57-6213 FAX : 0572-57-6679



**令和3年度
【道路事業概要】**

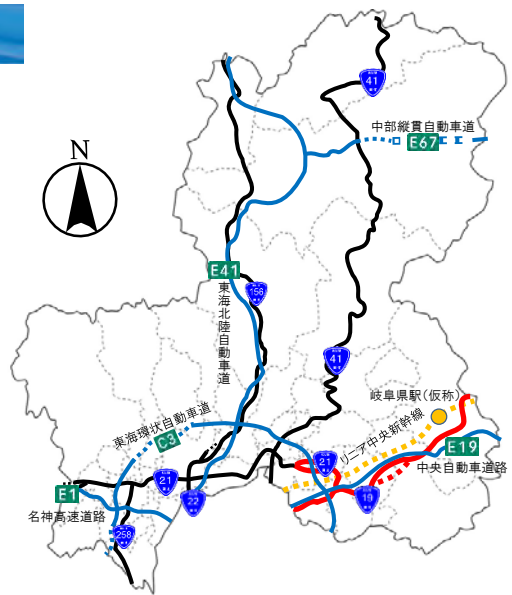
TAJIMI

概要

多治見砂防国道事務所管内は日本のほぼ中心に位置し、古くから東西交通の中継点として重要な役割を果たしてきました。

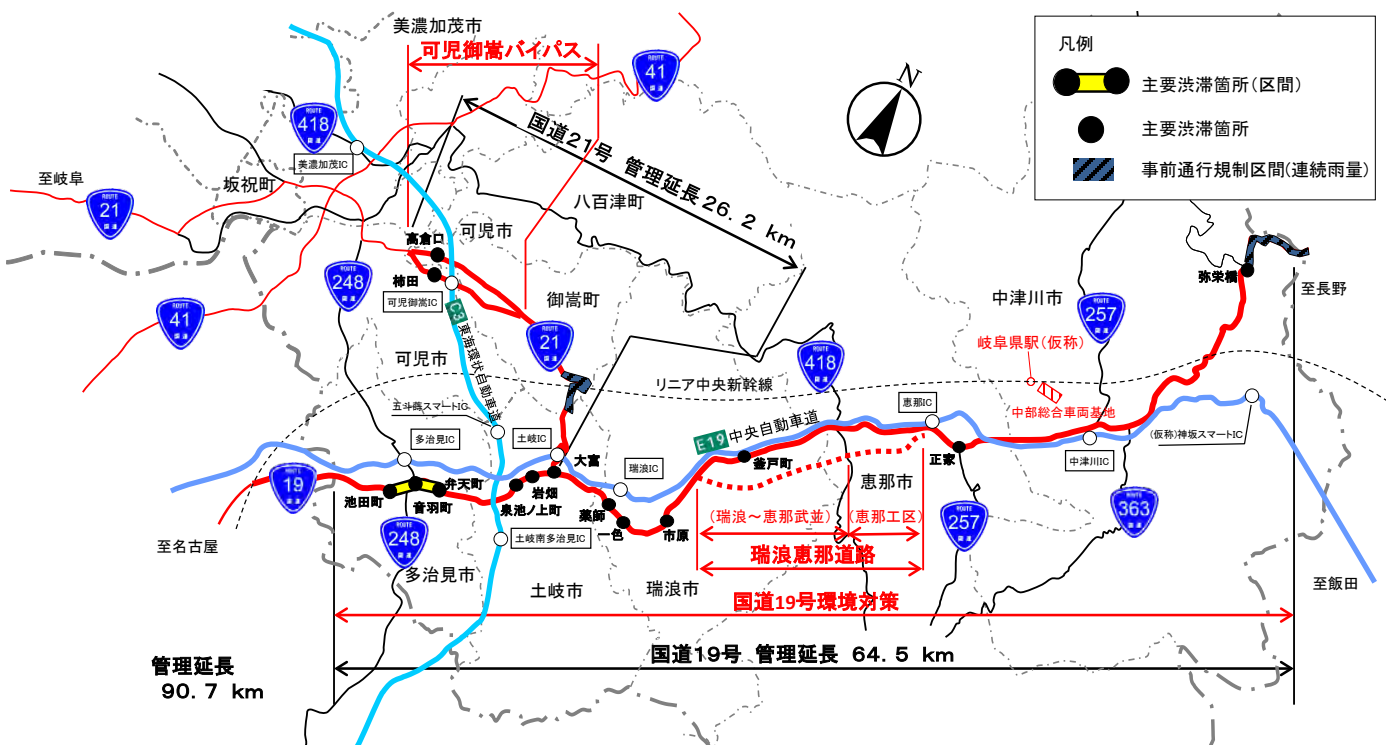
現在も国道19号、21号の果たす役割は重要であり、他圏域との交流や東濃地域の都市間交流を支えています。

また、令和9年にはリニア中央新幹線の岐阜県駅(仮称)が中津川市に整備される予定であり、東濃地域が一体的に発展するための基盤整備が求められています。



整備方針

- | | |
|------------|--------------------------|
| ◆渋滞緩和 | 主要渋滞箇所やボトルネックの解消 |
| ◆事故件数の削減 | 歩行者にやさしいみちづくりと走りやすい道路の整備 |
| ◆沿道環境の改善 | 騒音の軽減と市街地の交通分散 |
| ◆災害に強い道づくり | 大雨や地震等の自然災害に強い道路の整備 |
| ◆地域活性化支援 | リニア中央新幹線の波及効果を最大化する道路の整備 |



みずなみえな

瑞浪恵那道路



国道19号瑞浪恵那道路は、瑞浪市と恵那市を結ぶ延長12.5kmの区間で、渋滞・事故等の交通課題の解消や、リニア中央新幹線の開業（令和9年予定）の地域振興に寄与することを目的に計画された道路です。

平成27年度に瑞浪市土岐町～恵那市武並町までの延長8.2kmが事業化し、平成30年度に恵那市武並町～長島町までの延長4.3kmが事業化しました。

今年度の事業内容

◆関係機関協議、地質調査、環境調査、水文調査、埋蔵文化財調査、道路設計、橋梁設計、用地調査、用地買収、改良工、橋梁下部工を実施。

【釜戸町の渋滞】

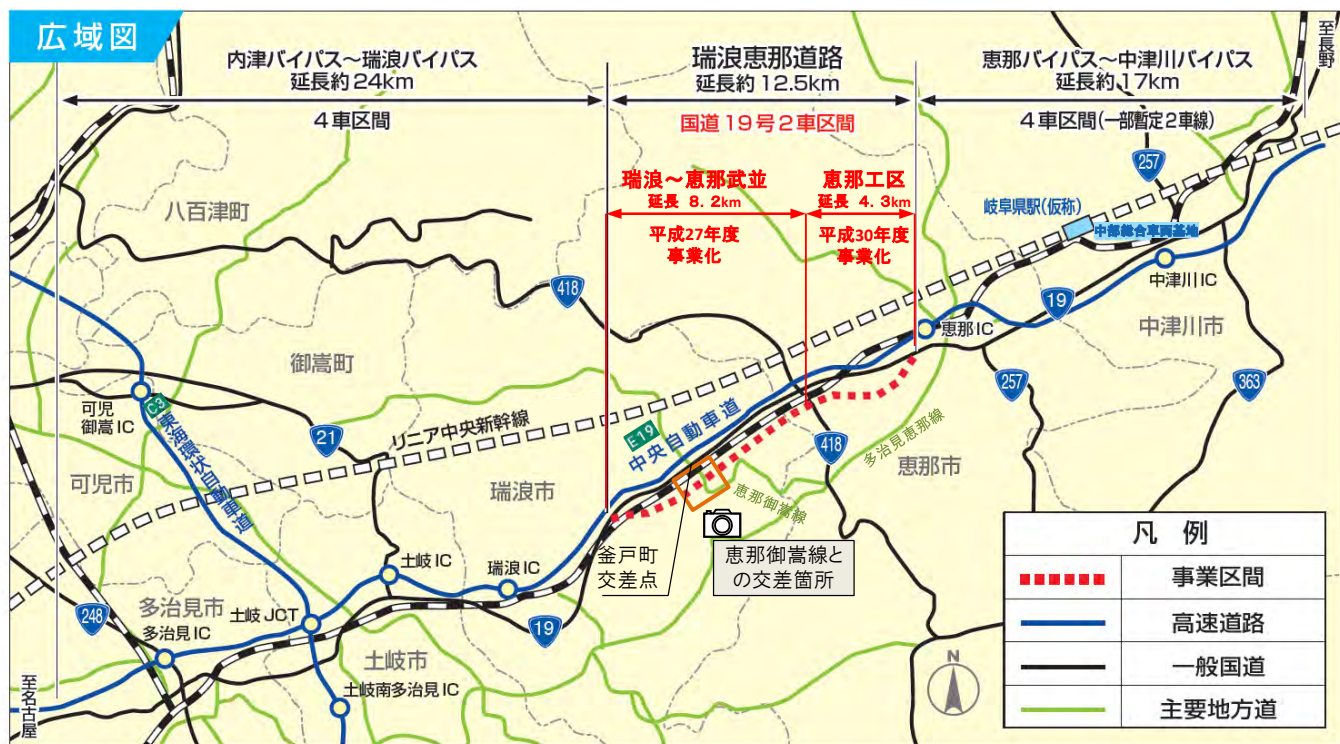


国道19号釜戸町交差点混雑状況(下り)



瑞浪恵那道路計画箇所(主要地方道恵那御嵩線交差箇所)

広域図



早期完成に向けて 工事を推進中!!



事業の流れ

瑞浪～恵那武並

事業化

H27.4 事業化
H27.8～9 事業説明会

測量

H27.11.21 中心杭打ち式

設計

H29.3～6 設計説明会

用地

H29.12.3 着工式

工事

令和3年度 調査・用地買収・工事中

完成

瑞浪1号橋下部工の工事状況



平成29年12月3日(日)瑞浪市鶴城交差点付近において着工式を開催し、起点部(土岐町地内)より施工を進めてきました。平成30年8月には市道横断函渠2基が完成。令和元年より橋梁工事に着手しています。令和3年度は、引き続き、改良工事、橋梁下部工事を推進していきます。



※令和元年度より「工事だより」を発行しています。詳しくは、事務所HPをご覧ください。



早期着工に向けて 道路設計を推進中!!

事業の流れ

恵那工区



平成30年10月27日(土)恵那市武並小学校において、中心杭打ち式を開催し、恵那工区の中心杭設置が完了しました。

令和2年度は用地買収に着手しました。

令和3年度は引き続き、地質調査・道路設計を実施し、用地買収を進めます。



渋滞・事故の緩和による 生活環境の改善!

金戸町交差点付近

至 長野

至 名古屋

令和元年5月撮影

- 国道19号は、沿線地域で唯一2車線が確保された東西路線として、**地域住民の生活に不可欠な道路**。
- 通過交通や大型車が多く、迂回路も少ないため、**渋滞や事故の発生時には大きな遅れが生じ生活に支障**。
- 瑞浪恵那道路の整備により、**現道(国道19号)の通過交通が転換し**、沿線地域の生活環境改善が期待。

主要渋滞箇所と事故による規制箇所

<地域の声>

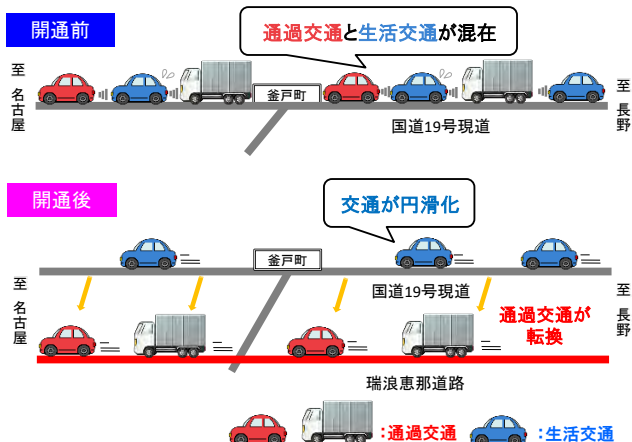


国道19号は混雑しており、**事故が発生すると渋滞で交通が止まってしまふ**。特に、沿線地域の住民にとっては**ストレス**になっている。

(恵那市役所ヒアリング)

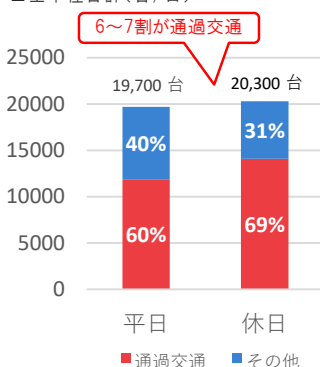


通過交通と生活交通の混在が解消

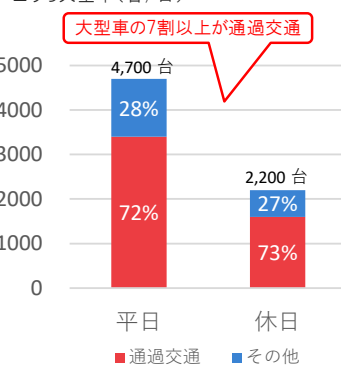


<国道19号(瑞浪・恵那市境断面)の交通量内訳>

■全車種合計(台/日)



■うち大型車(台/日)



昼間12時間ナンバープレート調査結果(平日:R1.5.29(水)、休日:R1.5.25(土))
※日補正は平成27年度全国道路・街路交通情勢調査の昼夜率(1.42)による

安心安全の確保に貢献!

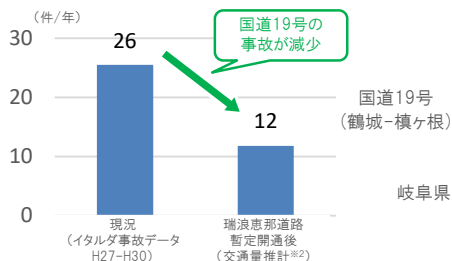
至 長野

至 名古屋

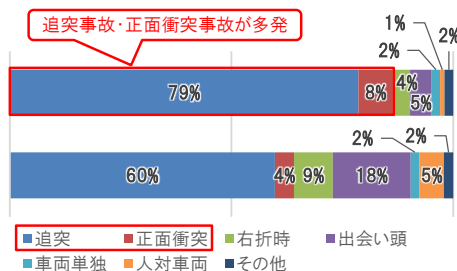
平成27年9月撮影

- 国道19号は、事故危険区間が残存していることや、中央分離帯が無い2車線の道路のため、重大事故につながりやすい正面衝突事故の割合が高い。
- 瑞浪恵那道路の整備により広域交通がバイパスに転換することで、国道19号の交通負荷が軽減し**交通事故減少**による**安全性向上**が期待。

国道19号※1の事故件数



※1 国道19号(鶴城～横ヶ根)の会計値
※2 将来交通量推計結果より、整備前後の交通量の変化率を現況に準じて算出



主要渋滞箇所と事故による規制箇所





信頼性の高い道路ネットワークを構築!

① 国道19号土砂流出の状況(令和2年7月)

- 国道19号は**狭隘な地形**に中央自動車道と並走しており、**土砂災害等**による道路寸断の**リスク**が存在。
- 平成29年8月には中央自動車道で、令和2年7月には国道19号で**土砂流出**による**通行止め**が発生。
- 瑞浪恵那道路の整備により、道路寸断時に迂回可能な**信頼性の高い道路ネットワーク**を構築。

狭隘な地形と国道19号沿線の土砂災害警戒区域

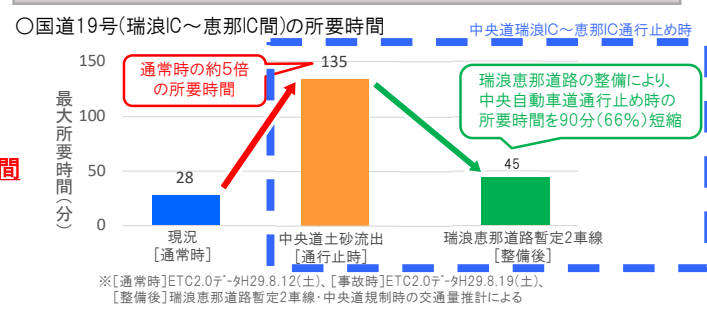
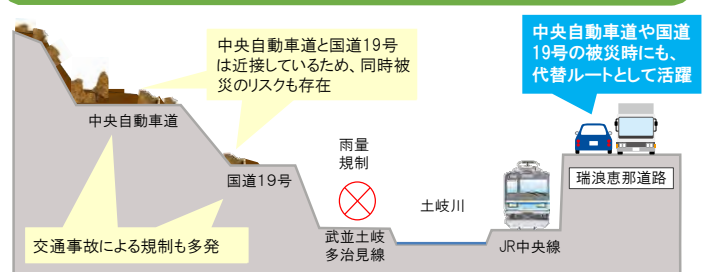


中央道土砂流出事故時の渋滞状況



中央道土砂流出事故による通行止
平成29年8月18日(金)中央自動車道への土砂流入により**約34時間**
の通行止が発生
[通行止区間] 瑞浪IC～恵那IC
[通行止時間] 34時間20分(8/18(金)21:40～8/20(月) 8:00)

瑞浪恵那道路による代替ルートの確保

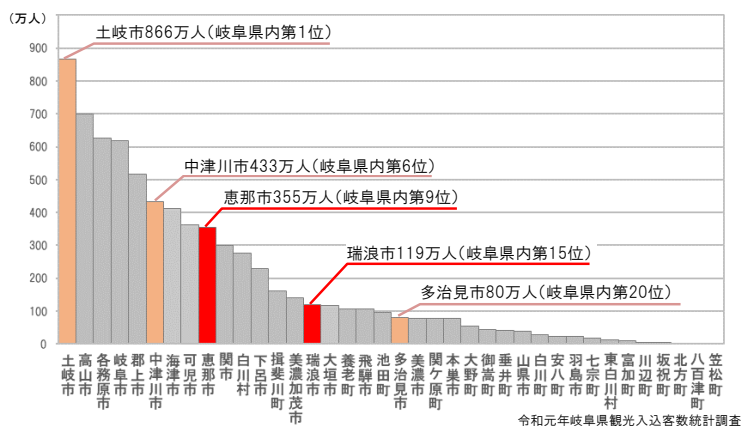


観光産業の活性化を支援!



- 瑞浪市と恵那市の観光入込客数は年間約500万人。
- 瑞浪恵那道路は点在する観光施設を繋ぐ周遊ルートとして観光交通を円滑化。
- 今後、リニア中央新幹線（令和9年開業予定）を利用した観光客に対し、瑞浪恵那道路を利用した周遊観光により観光産業の更なる活性化に期待。

瑞浪市・恵那市の観光入込客数(令和元年)



観光施設の声

- 瑞浪恵那道路により、アクセス向上と集客増加を期待しています。

岐阜県クリスタルパーク恵那スケート場ヒアリング結果(H31.1)

- 瑞浪恵那道路により周遊性が向上することで、立ち寄り客の増加に期待します。

道の駅らっせいみさとヒアリング結果(H31.1)

- 秋の観光シーズンには道路が混雑するため、ルートが増加すれば、観光客に来てもらいやすくなる。

恵那市観光協会ヒアリング結果(R1.10)

周辺観光地と周遊ルート



地域経済の活性化を支援!



- 瑞浪恵那道路の事業化(H27.4)とともに、沿線地域における**企業進出**や**地域開発**が進展。
- 瑞浪～恵那間のアクセス向上、安定した物流の確保により、**地域経済の活性化**を支援。

瑞浪恵那道路沿線の開発状況



地域の声(瑞浪市)



瑞浪恵那道路により、企業進出による**雇用創出**や**人口の定着**、**観光周遊性の向上**など、**経済の活性化**を期待しています。

地域の声(恵那市)



瑞浪恵那道路により**安定した物流の確保**が期待でき、**リニア開業**と併せた**土地の魅力アップ**や**住宅地の拡大**にも期待しています。

岐阜19号環境対策



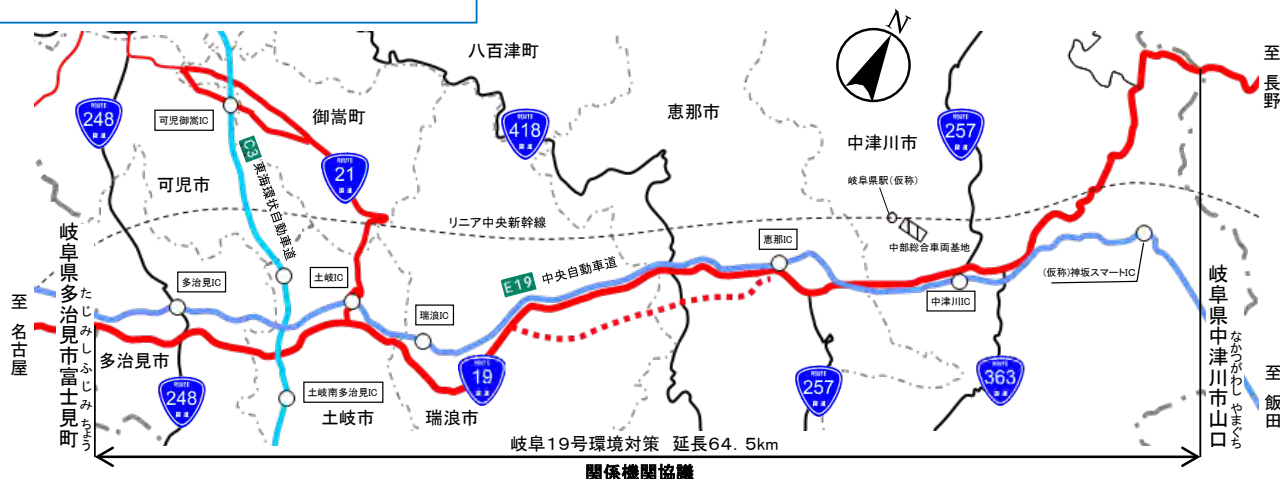
岐阜19号環境対策は、国道19号の多治見市富士見町から中津川市山口において、大型車混入率が高く、騒音レベルが高い区間の沿道環境を保全することを目的とする環境整備事業です。

今年度の事業内容

◆関係機関協議を実施。



●騒音対策(低層遮音壁)の実施状況(瑞浪市釜戸町)



かにみたけ 可児御嵩バイパス

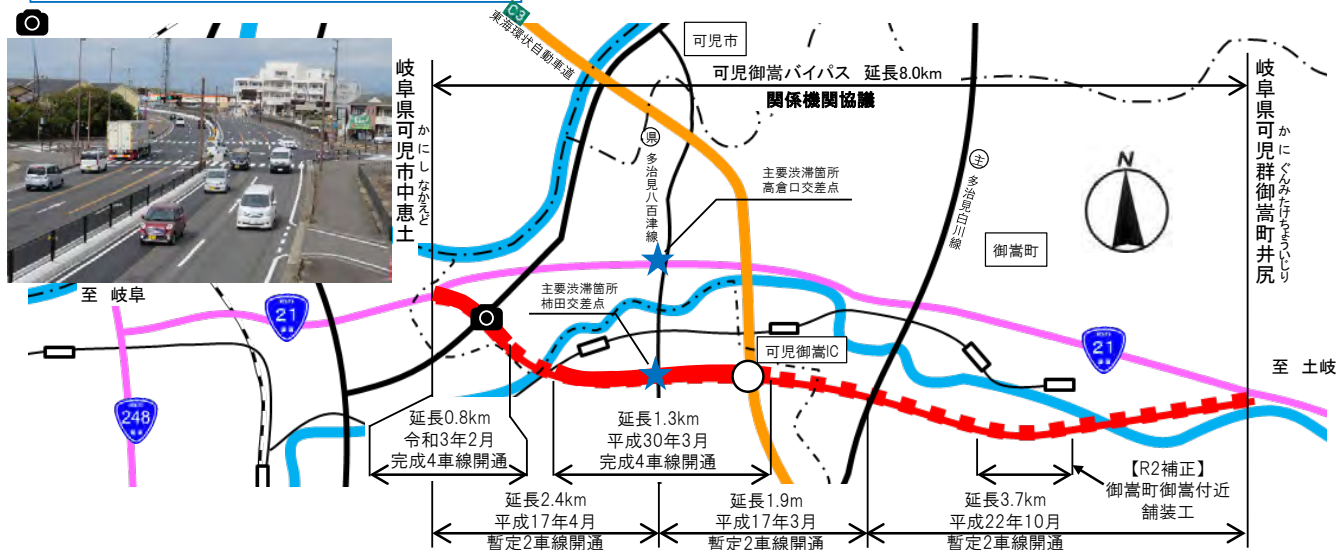


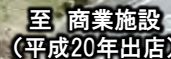
国道21号可児御嵩バイパスは、現道21号の交通混雑の緩和、交通安全の確保とともに、東海環状自動車道可児御嵩ICへのアクセスの確保、ならびに可児御嵩地区の地域開発の支援を目的とする道路です。

平成22年度に全線8.0kmを暫定2車線開通し、平成30年3月に可児御嵩インター付近延長約1.3kmが4車線開通、令和3年2月に上恵土地区において延長約0.8kmが4車線開通しています。令和3年度は御嵩町御嵩付近において舗装工事を予定しています。(R2補正予算)

今年度の事業内容

◆関係機関協議を実施。







24時間365日、安全・安心に通行できるだけでなく、国土の骨幹となる道路として地震等の災害時にも緊急物資の輸送ができるように道路管理事業を実施します。

道路の補修・防災対策

今年度の主な事業内容

- ◆ 橋梁等の道路施設の補修工事、構造物点検等。
- ◆ 自治体職員への橋梁点検講習会。
- ◆ 防災対策工事、道路防災点検等。
- ◆ 国道21号における亜炭坑充填工事。

◆ 道路施設の補修工事、構造物点検（道路メンテナンスの実施）

利用者の方々が安心して利用できるように、道路施設の点検から補修、防災対策等のメンテナンスを実施しています。

1. 道路橋の点検から補修工事の実施まで

わが国の道路構造物は高度成長期に一斉に整備され、建設後50年経過した構造物が今後本格的に補修・更新の時期を迎えようとしています。特に橋梁は、中部地方整備局管内でも重大な損傷による交通傷害が懸念されています。また、当事務所の建設後50年経過する橋梁は、10年後に全体の7割弱に達します。

このため、点検・診断・措置・記録のメンテナンスサイクルを確実に推進し、橋梁の保全に努めています。



橋梁点検



損傷部位の確認



損傷部位の補修

2. その他の道路施設の点検等

トンネル、擁壁、標識、道路照明等の道路施設については、点検及び補修設計・補修工事を実施し、道路施設等の保全に努めています



トンネル点検（高所作業車）



標識点検（高所作業車）



歩道橋点検（高所作業車）

◆道路メンテナンス(自治体支援)

地方自治体職員の技術力向上を目指して、橋梁点検の講習会を実施します。

◆防災対策

管内全域の道路のり面について防災点検等を実施します。また点検結果に基づき、対策が必要と判断されたり面・斜面等については、計画的に防災対策を実地します。

◆その他の道路施設

可児市・可児郡御嵩町地内では、戦前～戦後間もなくまで亜炭(質の悪い石炭)が採掘されており、その跡(亜炭坑)が今も残されています。国道21号可児郡御嵩町地区において、地震発生時に陥没のおそれのある亜炭坑に、充填工等の対策を実施することで、地震発生時における被害の軽減を図ります。

平成26年度から亜炭坑の状況確認調査、充填工事を実施しており、令和3年度も引き続き、充填工事を実施します。

自治体支援



橋梁点検講習会



道路メンテナンスのパネル展示

防災対策



落石防止網工



アンカー工

亜炭坑対策



亜炭採掘跡(廃坑内部の様子)



充填状況

削孔状況

亜炭坑充填工事の様子

日常の道路管理 ～ 365日安全に通行できるよう ～

道路維持管理基準(案)及び 道路維持管理方針(案)に基づく効率的・効果的な点検・道路施設の損傷部等の維持補修、冬期の雪氷作業の実施により安全・安心な通行を確保します。

今年度の主な事業内容

◆道路施設の点検・損傷部等の補修・日常的な維持作業(道路巡回、除草、除雪)及び特車取締りを実施。



道路施設の点検



道路損傷部の補修



道路巡回による作業



特殊車両の取締り



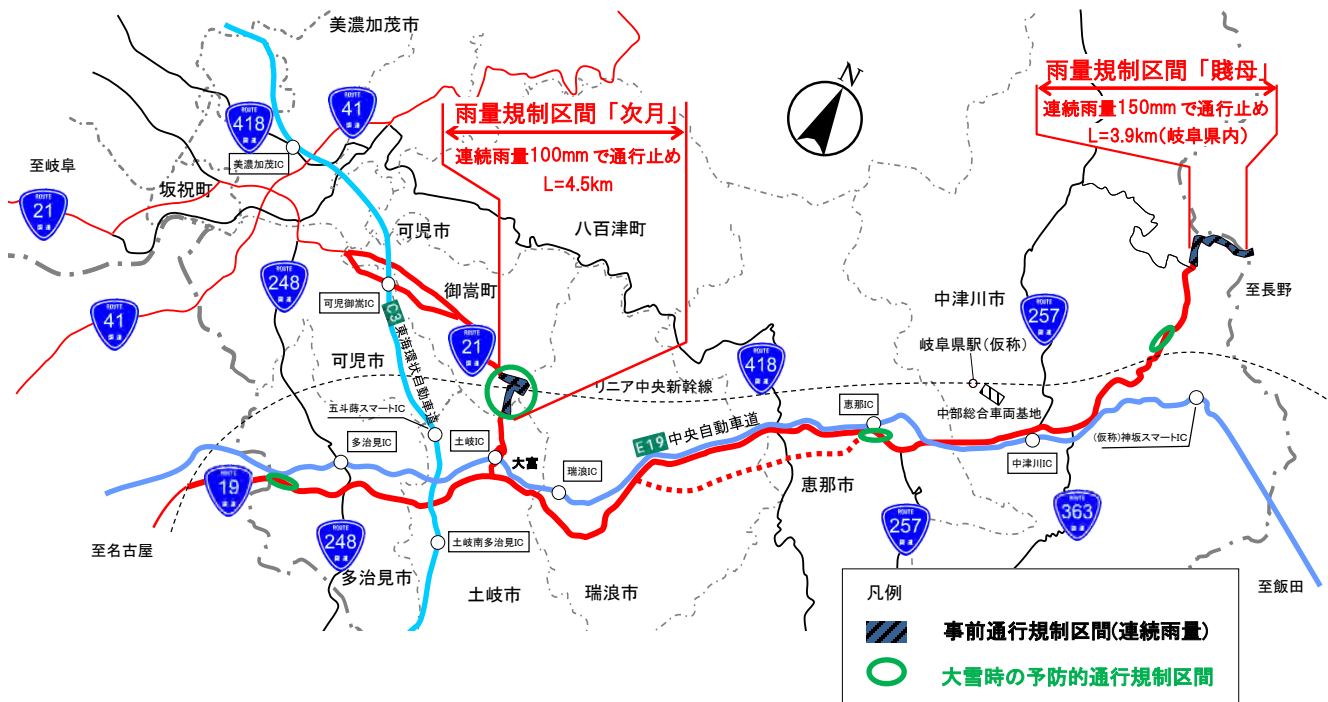
除草作業



冬期道路の除雪作業

緊急時の道路管理 ～ 緊急時に備えて ～

大雨(大雪)・地震時等の異常気象や災害発生時に早急な初動体制を整え危機対策を実施し道路利用者の安全を第一に交通の確保に努めます。また災害に備えた訓練を実施し、災害時の迅速な対応に努めます。



交通安全事業として、歩道空間の整備、交差点改良、区画線や安全標識に代表される交通安全施設等の整備を行い、安全で快適な道路空間の確保を行います。

交通事故対策 ～ 交通死亡事故件数の削減に向けて ～

今年度の主な事業内容

◆工事を実施。

歩道整備

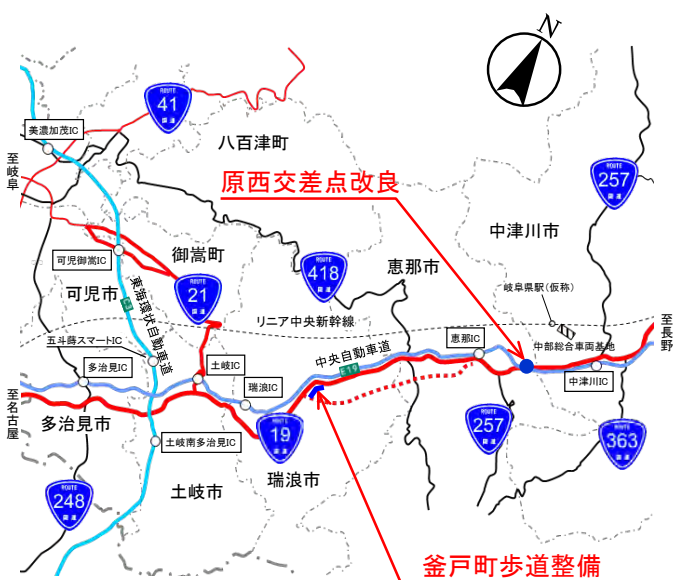


【釜戸町歩道整備(瑞浪市)】

大型車が多く走る地区にもかかわらず、歩道が整備されていなかったため、歩行者が安全に通行することができない状態となっていました。

今後も引き続き、歩道整備工事を進めていきます。

交差点改良



【原西交差点改良(恵那市)】

当該交差点は、右折車と直進車の衝突事故や、追突事故が数多く発生しています。

右折レーンの正対化※1を図る改良や交差点のカラー化による、安全性向上のための交差点改良工事を進めていきます。

※1 右折レーンの正対化

対向する右折車同士を真正面に近づける整備。
これにより右折車と対向車はお互いに確認しやすくなるため、安全になる。

対策事例

歩道整備

安全、安心な歩道整備のため、歩道未整備区間の事業進捗を図っています。

山口第十区(中津川市)

整備前



整備後



交差点改良

交通事故対策として、交差点をコンパクト化(横断歩道位置を変更)して、安全性を向上させています。

音羽町(多治見市)

整備前



整備後



交通安全施設

合流箇所においてポストコーン(矢印表示)を設置して、逆走防止対策を行っています。

四ツ目(中津川市)

整備前



整備後



拡大写真

地域との協働 ～ 地域と一体になって取り組む ～

各種ボランティア団体と協働での沿道美化活動など、沿線地域と一体となった道路管理を実施しています。

道路ふれあい月間



道路愛護団体表彰式（事務所長表彰）

ボランティアサポートプログラム



多治見市



土岐市



中津川市



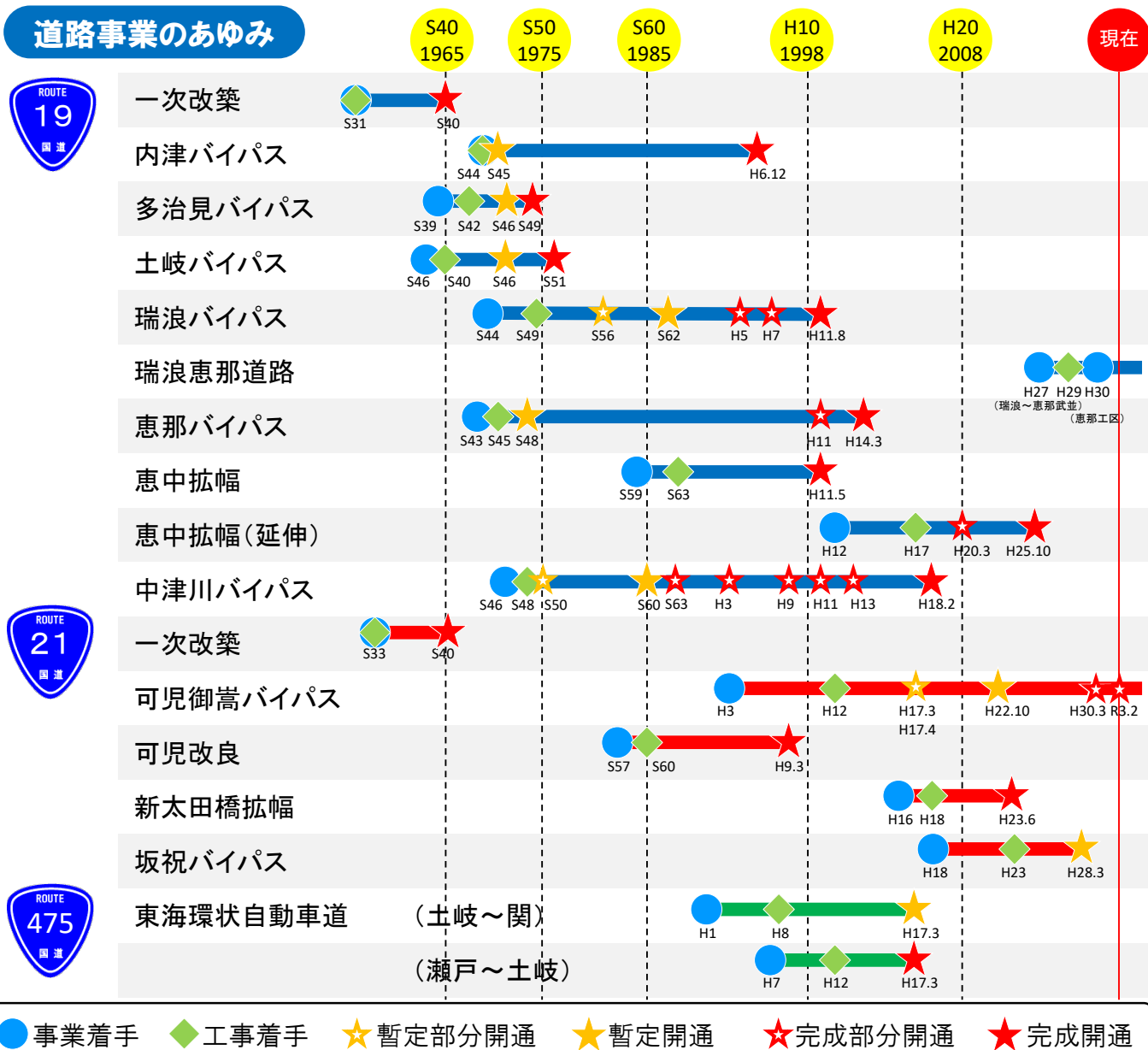
中津川市

主な事業実施箇所別事業費

単位: 百万円

工種	路線名	市町村名	事業名	事業費
改築	19	瑞浪市～恵那市	瑞浪恵那道路(瑞浪～恵那武並)	2,410
改築	19	恵那市	瑞浪恵那道路(恵那工区)	680
改築	19	多治見市～中津川市	岐阜19号環境対策	10
改築	21	御嵩町～可児市	可児御嵩バイパス	10
交通安全	19	瑞浪市	釜戸町歩道整備	15
交通安全	19	恵那市	恵那市竹折歩道整備	3
交通安全	19	恵那市	原西交差点改良	27
交通安全	19	中津川市	山口下山歩道整備	204

道路事業のあゆみ





【改築事業】 瑞浪恵那道路
【改築事業】 可児御嵩バイパス

【維持管理事業】
橋梁点検

【維持管理事業】
防災対策

【交通安全事業】
交差点改良

【維持管理事業】
道路パトロール

【維持管理事業】
ボランティアサポート

【交通安全事業】
歩道整備

おもて

うら

SABOKOKUDO

令和3年4月

開放講座「水と街道」

多治見砂防国道事務所では、①砂防事業・道路事業の重要性について理解と協力を得ること、②受講生自らが地域づくり活動へ積極的に参加する「きっかけ」づくり、③地域住民とのコミュニケーションの促進の3点を目的として、開放講座「水と街道」を平成11年度より開催しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となりましたが、過去21期までの受講者数は延べ約1,750名以上で、令和3年度においても、第23期の開講に向けて会員の募集を行っています。



道路講座



砂防講座



道路工事現場見学(瑞浪恵那道路)



砂防工事現場見学(越百川第3砂防堰堤)



講座修了生でつくる「地域づくり活動」現場見学



意見交換会(班単位による意見交換)

<講座受講者の感想>

- ◎道路、砂防工事現場等、現場で頑張っている姿をもっと多くの人達に知っていただきたい。
- ◎充実した講座でした。色々な現場、砂防工事現場は圧巻。
- ◎行ったことのない場所へ行くことが出来て楽しかったです。普段は入ることのない所へ行ったり、知らないことを知ることができました。
- ◎工事の現場を間近に見学出来た。水と街道のボランティア活動にエネルギーをいただいた。
- ◎国交省の事業内容が理解でき、改めて友人等にお誘いたい。



国土交通省 中部地方整備局 多治見砂防国道事務所

〒507-0023 岐阜県多治見市小田町4-8-6
TEL 0572-25-8020(代)

- ☐ 総務課 TEL 0572-25-8020
- ☐ 経理課 TEL 0572-25-8021
- ☐ 用地第一課 TEL 0572-25-8022
- ☐ 用地第二課 TEL 0572-25-8176

- ☐ 工務第一課 TEL 0572-25-8023
- ☐ 工務第二課 TEL 0572-25-8025
- ☐ 道路管理課 TEL 0572-25-8027
- ☐ 砂防調査課 TEL 0572-25-8024
- ☐ 計画課 TEL 0572-25-8026

- ☐ 中津川出張所 TEL 0573-66-1353 〒508-0045 中津川市かやの木町4-1
- ☐ 妻木出張所 TEL 0572-57-6213 〒509-5301 土岐市妻木町万場1135-2
- ☐ 上松出張所 TEL 0264-52-4863 〒399-5605 長野県木曽郡上松町栄町2-9
- ☐ 瑞浪国道維持出張所 TEL 0572-68-4591 〒509-6108 瑞浪市益見町2-99



ホームページアドレス
<https://www.cbr.mlit.go.jp/tajimi/>

